
平成 30 年度

まちづくり活動助成 活動視察

団体名 水辺とまちの入口研究所

「堀川デザインコード研究会」

テラッセ納屋橋に地域参加スペース「川縁（かわべり）」が設置されたのを機に、ナゴヤの水辺のあり方を考える団体を発足。最初に「堀川デザインコード研究会」という研究活動をスタートさせ、堀川らしさを明らかにし、水辺とまちのつながりを深めていこうとしています。

■活動の内容

「堀川らしい風景を語りあう会」◇平成 30 年 10 月 20 日（土）14：00～16：00

◇名古屋都市センター11階ホール

はじめに主催者の名古屋工業大学大学院教授の秀島先生から今回の会の主旨についての話があり、「テラッセ名古屋」が出来てからその場所の一室を借りて、6つの団体と毎月一回活動しており、研究活動では、みんなが堀川に惹かれる訳や、なぜ汚かった川がこれほど綺麗な川に生まれ変わった

か？などそれぞれのテーマで行って

きた研究の成果を、今回の報告会で伝えたいと説明がありました。

研究会メンバー8人による発表タイムとして、研究や調査した結果を一人4分の持ち時間内に発表されました。各自の研究内容も写真付きで分かり易く、それぞれの堀川への熱い想いも伝わる内容でした。

その後、わいわいタイムとして堀川の詳細やそれぞれの見解について会場全体で話し合われました。論点は、愛知県立芸術大学美術学部教授の水津先生と、名古屋スリバチ学会の古橋さんが提供し、進行役はメンバーの井村さんです。

今回の発表の内容についてもっと深く掘り下げた話や、それぞれが知ってる昔の堀川の話に、参加者からの質問にパネリストがやりとりをしながらざっくばらんな雰囲気が進んでいき、堀川についてより詳しく、面白い情報や最近の取り組みを知ることができ、参加者も充実した会になったのではと思われました。

